



# 新潟市立東特別支援学校

令和6年度 学校だより4月号

## 満開の桜のように

校長 阿部 隆一

令和6年度の児童生徒の在籍総数は、208人。200人を超えるのは、当校開校史上で初めてです。在籍数増に伴い、教職員数もまた増えました。一段と大きくなった学校の運営。桜を見上げながら、ふと思いました。桜のような学校になりたいと。

桜が咲き始めた4月2日。職員会議で「人権感覚をアップデートしていきましょう」と呼び掛けました。当校の開校理念から、特段の人権感覚が期待・要求されている学校であることは、全職員が承知しています。近年、私たちと密接に連携・協働する保育や福祉の現場では、不適切な支援・虐待防止法違反を根絶するために、人権尊重・支援改善の取組が強力に進められています。そこで、新潟市保育課「不適切保育防止のためのガイドライン」、新潟市障がい福祉課「障がい者虐待防止について」を参考資料として職員に紹介し、私たちも保育・福祉と同様に、人権感覚を一層アップデートしていこうと確認しました。

桜が五分咲きの4月4日。今年度最初の職員研修として、「自立活動の個別の指導計画」を全員で確認しました。職員は、学習指導要領解説自立活動編を持ち、各学年の教室に集合。自立活動編に明示されている考え方・手順・配慮事項をZOOM画面で解説する研究主任の問いを受け、3～4人の少人数グループで協議しながら、仮想児童生徒の自立活動を考えました。

桜が満開の4月9日。救急車要請までを想定した「緊急対応研修」を全職員で行いました。校内研修用動画で要点を確認した後、児童生徒役と職員役になり、想定シナリオに基づき本番さながらの演習を繰り返しました。緊急時には、応急措置、記録、校内連絡、周囲の児童生徒の安全確保、119番通報、保護者連絡、救急車の誘導、救急隊ストレッチャーの動線確保、救急隊の校内誘導、救急車同乗準備などを全職員で役割分担し、しかも同時・迅速に行う必要があることをみんなで確認しました。

桜は、その一つ一つの花は小さく、色合い・大きさ・向きは画一的ではなく、多様性に富んでいます。古木になると枝も四方八方に伸び、数え切れないほどの花を付け、その花が幾層にも重なり合い、木全体



の姿で、見る人を魅了します。咲き誇る花全体・木全体で評価される桜ですが、その全ての花・全ての枝は、一本の丈夫な太い幹で支えられ、つながっています。

児童生徒も教職員も増えた東特別支援学校も、個性と多様性に富むたくさんの花が、校内各所で開花し満開になる1年を目指してスタートします。

その全ての花と枝は、桜のように教職員の共通認識・共通理解・チームワーク力という太い幹でつながっている学校を目指して。